
大学進学後のキャリア形成を考える —大学中退問題を中心に—

労働政策研究・研修機構
小杉礼子

大学進学後のキャリア形成を考える

—大学中退問題を中心に—

- 高等教育中退者の近年の増加
- 先行研究に見る中退の背景要因
 - 性別・設置者、入学偏差値(大学入学前の学力)、専攻、志望度、入試方式
 - 学習意欲、学習環境、家計、社会階層
- 中退後の職業キャリア
 - 厚労省パネル調査「21世紀成年者縦断調査」の2次集計
- 中退の背景と中退後の求職活動
 - JILPT調査「大学等を中途退学された方の働き方と意識に関する調査」
(ハローワーク来所中退者調査)
- まとめ: 高校での進学指導・キャリア教育との関係から

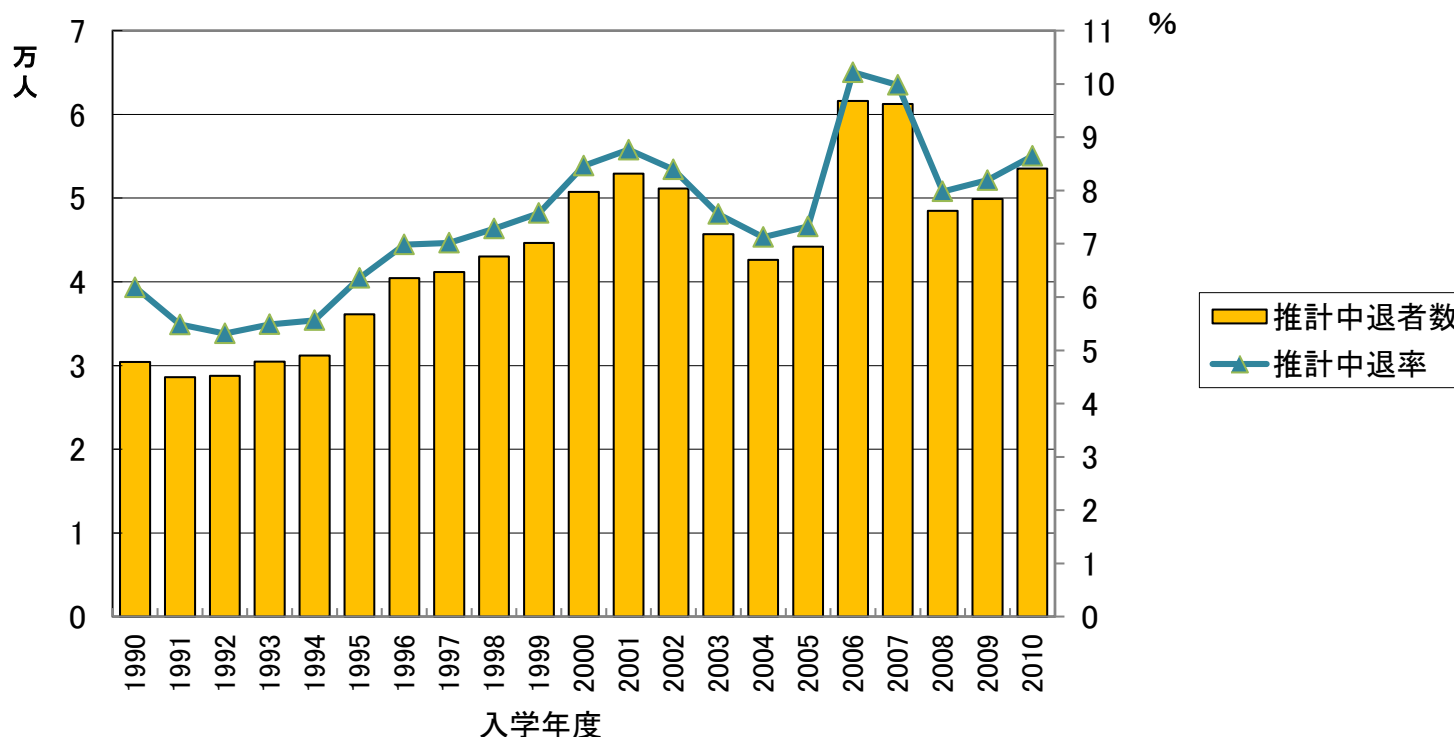
高等教育中退者の近年の増加

文部科学省調査

2012年度(平成24年度)中退者

- ・大学・短大・高専 79,311人(2007年度は63,421人)
- ・専修学校専門課程 30,322人(2010年度は28,347人)

「学校基本調査」からの推計(4年制大学)



資料出所:『学校基本調査』より、推定中退者数は入学年度の入学者数から4年後の卒業生数を減じた数、推定中退率はこれを入学者数で除したもの。なお、2006-2007年の急増は薬学部の6年制化に伴う卒業生の減少のために生じた誤差によると考えられる。

先行研究に見る中退の背景要因

機関調査から

大学設置者別・性別中途退学率

	男子				女子			
	全体	国立	公立	私立	全体	国立	公立	私立
4年以内中退率	10.8	4.1	6.5	12.4	6.1	2.0	3.8	7.0
8年以内中退率	13.7	7.5	8.9	15.2	6.9	2.7	4.7	7.8

資料出所: 朴澤(2012)

『学校基本調査』のデータを元に、「4年以内中退率」=(入学者数-4年後卒業者数-最低在学年限1年超過学生数)÷入学者数×100、「8年以内中退率」=(入学者数-累積卒業者数)÷入学者数×100、で算出。

社会科学系学部における 入学偏差値別中途退学率

資料出所: 清水(2013)より引用
退学率は読売新聞による「大学の實力2013」により、また、偏差値はベネッセによる。

偏差値	私立	国公立	合計
39	17.2		17.2
40-44	16.9		16.9
45-49	11.6	6.7	11.5
50-54	8.0	3.8	6.8
55-59	6.0	3.6	5.0
60-64	3.4	1.6	2.9
65-69	3.2	2.4	3.0
70以上	3.0	1.5	2.2
平均	11.0	2.9	9.4

大学の入学以前の学力の問題

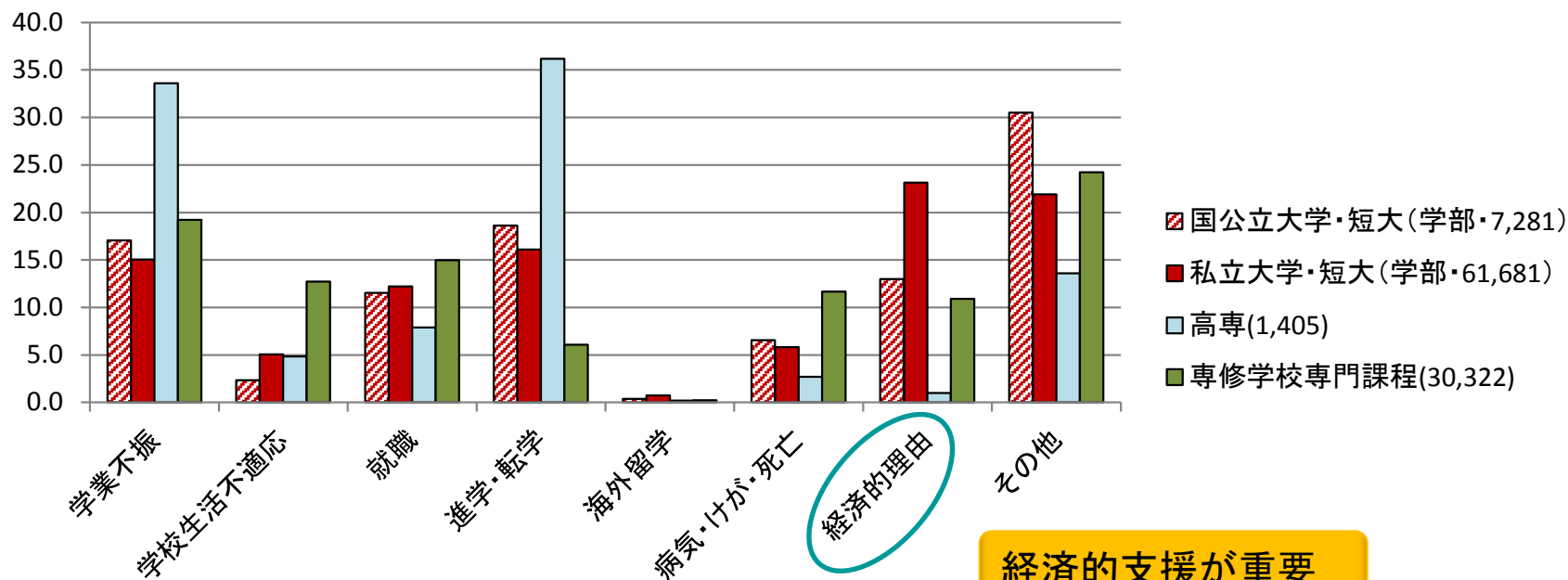
大学の学習・生活環境の影響 (姉川、2014)

- 「学生一人当たり図書貸出数」、「学生100人当たり教員数」は、退学率と負の相関

学生の学習意欲を高める大学の学習環境の整備が重要

読売新聞による「大学の實力」調査(2007～2009)、朝日新聞出版「日本の大学ランキング」(2007～2009)の接合データを分析。

中途退学の理由 (2012年度中退者、文科省2014 東京大学政策ビジョン研究センター2014)



経済的支援が重要

中途退学の理由 (全国大学メンタルヘルス研究会1979年～、内田2013)

国立大学法人・60校程度が参加

- 退学率: 男性 > 女性、理系 > 文系
- 消極的理由(勉強意欲の喪失や就職など大学教育路線から離れる理由)が長期的にも多く約半数。積極的理由(留学や他大学受験)は2割程度、経済的理由などの環境要因が1割強、精神障害5%、身体疾患3%程度。

個人調査から

入学時の退学意向の分析 (山下、2014)

- 退学意向と入学偏差値が関係するのは社会科学系
- 志望大学でも学部の志望順位が低ければ退学意向高い。
- AO入試や推薦入試で退学意向は低く、一方、センター利用入試で高い。

ベネッセによる「大学生基礎力調査」(2013): 1～3年生約2万人

専攻への興味、学ぶ目的が重要
Web出願の影響が懸念される

学生の社会関係資本 (鍛冶、2010)

- サークル活動への参加
- 初年次前期の単位取得 が退学防止に効果

ひとつの新設私大社会学系学部での調査」(2010)

中退者を含む社会調査から *SSM(社会階層と社会移動調査)他

- 出身階層の影響は近年のコーホートでも古いコーホートで見られる (三輪・下瀬川 2014)
- 高校の学科(専門学科のほうが普通学科より中退可能性が高い) (村澤 2008)
- 相談相手が多いと中退可能性は低い(ただし在学中ではなく調査時点) (村澤 2008)
- 中退者は管理・専門職、技術職、事務職への参入障壁がある可能性あり (村澤 2008)

アメリカの大学中退研究から

- 「第一世代」(家族に高等教育を受けた人のいない学生)問題への対応
- 専攻の選択の遅延化が重要 (濱名, 2013)

①出身階層、経済的負担、②入学前の学力、③専攻への興味、学ぶ意欲、④学習環境、学生支援

中退後の職業キャリア

厚生労働省「21世紀成年者縦断調査」(パネル調査;第1波は2002年に20~34歳であった全国の男女33,689人、第2波は2012年20~29歳であった全国の男女39,892人)の2次集計による。

使用データは、在学者を除き、中退の有無、就業の有無が明らか者。第2波の1回目である「2012年調査」23,178票(男性11,094票、女性12,084票)、第1波の2回目である「2003年調査」19,805票(男性9,297票、女性10,508票)、第1波の1回目から11回目までの調査を接続した「履歴データ」10,092票(男性4,566票、女性5,526票)。

卒業や中退で学校を離れた(以降、離学と呼ぶ)20歳代の若者の10人に一人は学校中退者である。男性に限れば8人に一人と多い。中退者は増加傾向にあり、20歳代後半層にしばった数字では2003年の7.5%から2012年の10.5%に増えた。最も増加率が高いのは大学中退者である。

図表1 年齢段階別対象者の学歴構成

	2012年調査						2003年調査			2003-2012年 間の増加率 (男女計)
	20~24歳			25~29歳			25~29歳			
	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計	
中学卒	2.4	1.5	1.9	2.4	1.3	1.8	2.4	0.9	1.6	
高校卒	46.8	35.2	40.6	32.2	27.9	30.0	35.6	30.0	32.7	
専門学校卒	15.5	20.2	18.0	17.0	21.2	19.2	18.4	18.5	18.5	
短大・高専卒	3.0	17.0	10.4	2.9	13.7	8.5	3.5	24.1	14.2	
大学卒	17.4	16.6	16.9	28.6	25.5	27.0	27.2	20.0	23.5	
大学院卒	0.5	0.1	0.3	3.4	1.3	2.3	2.4	0.7	1.5	
他・不明の学校卒	1.3	0.9	1.1	0.8	0.6	0.7	0.5	0.4	0.4	
高校中退	5.1	3.7	4.3	5.1	3.9	4.5	4.1	2.1	3.0	1.5
専門学校中退	3.1	2.5	2.8	2.2	2.5	2.3	2.3	1.7	2.0	1.2
短大・高専中退	0.4	0.6	0.5	0.4	0.7	0.6	0.4	0.8	0.6	0.9
大学中退	4.4	1.6	2.9	4.4	1.3	2.8	2.8	0.7	1.7	1.6
大学院中退	0.1	0.0	0.1	0.3	0.1	0.2	0.3	0.0	0.1	1.3
他・不明の学校中退	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	-
中退者計(再掲)	13.1	8.5	10.7	12.6	8.5	10.5	10.0	5.3	7.5	
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(N)	4,368	4,982	9,350	6,723	7,101	13,824	3,160	3,437	6,597	

離学後、何らかの就業までの期間は、卒業者に比べて中退者では長い。中退者の場合、離学から3か月以内に就業した者は3割に満たず、3か月以上かかった者の方が多い。3年以上の期間の空きがある者、あるいは現在も未就業の者が合わせて2～3割いる。2003年時の調査と比較すると、就業までにかかる期間は長くなる傾向にある。

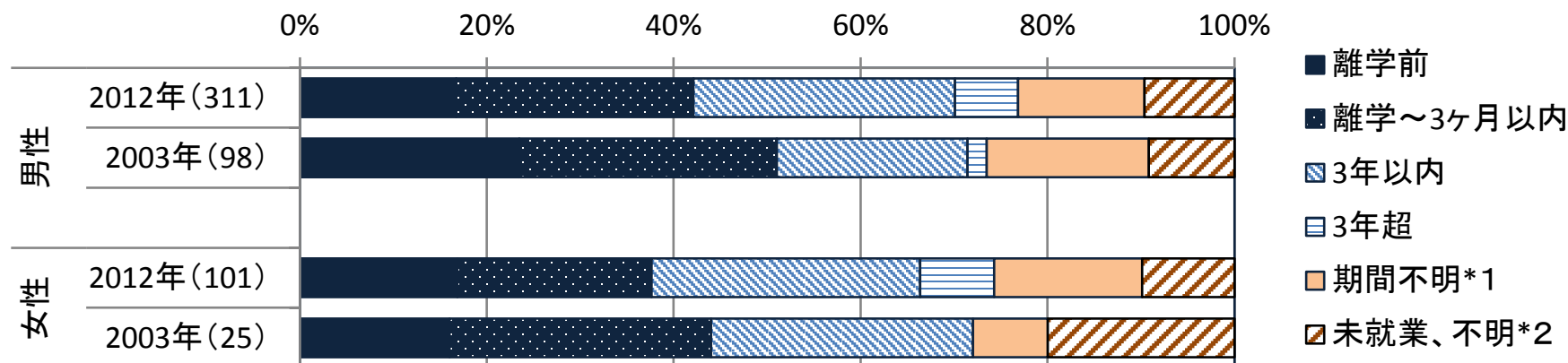
図表2 卒業・中退から、就業までの期間

		離学前	離学～3ヶ月以内	3年以内	3年超	期間不明*1	未就業、不明*2	合計		
2012年調査	男女計	中学卒	1.4	19.1	15.2	21.8	22.3	20.2	100.0	435
		高校卒	2.7	60.4	11.6	6.7	14.1	4.5	100.0	7,941
		専門・短大・高専卒	5.6	64.2	11.0	4.4	12.8	2.1	100.0	6,482
		大学・大学院卒	3.5	69.4	11.6	2.1	10.2	3.3	100.0	5,671
		高校中退	8.4	16.3	22.4	16.5	22.9	13.5	100.0	1,019
		専門・短大・高専中退	12.6	27.9	28.5	8.3	12.6	10.2	100.0	709
		大学・大学院中退	19.5	23.8	25.9	4.9	12.0	13.9	100.0	692
		合計	4.8	58.8	12.9	5.6	13.2	4.8	100.0	23,178

*1 期間不明は、就業経験があることは確認されたが、最初の就業時期が不明な者。

*2 ここでの不明は、現在無業であり、就業経験の有無が不明な者。

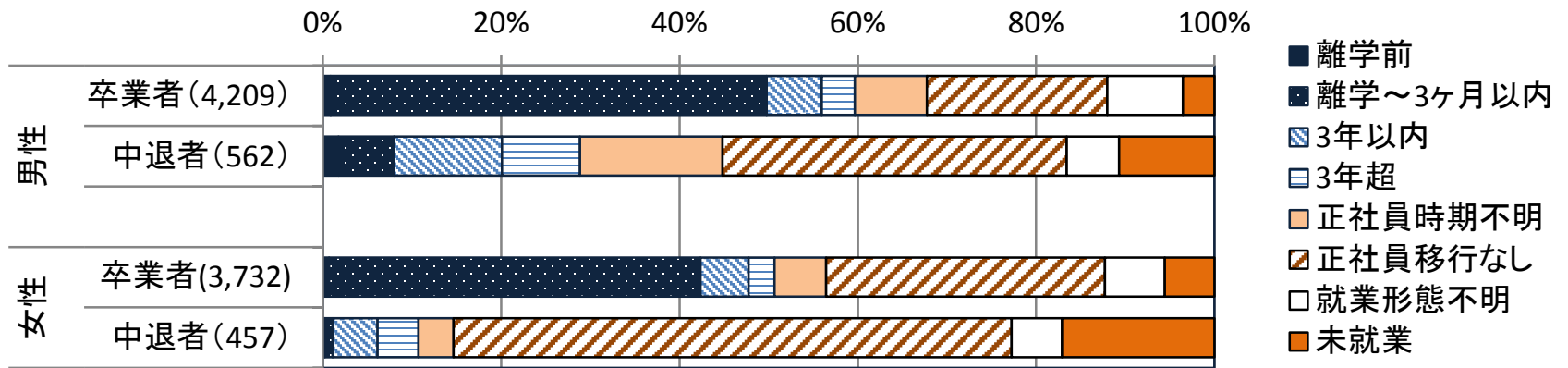
図表3 大学・大学院中退者(25～29歳)の就業までの期間の変化



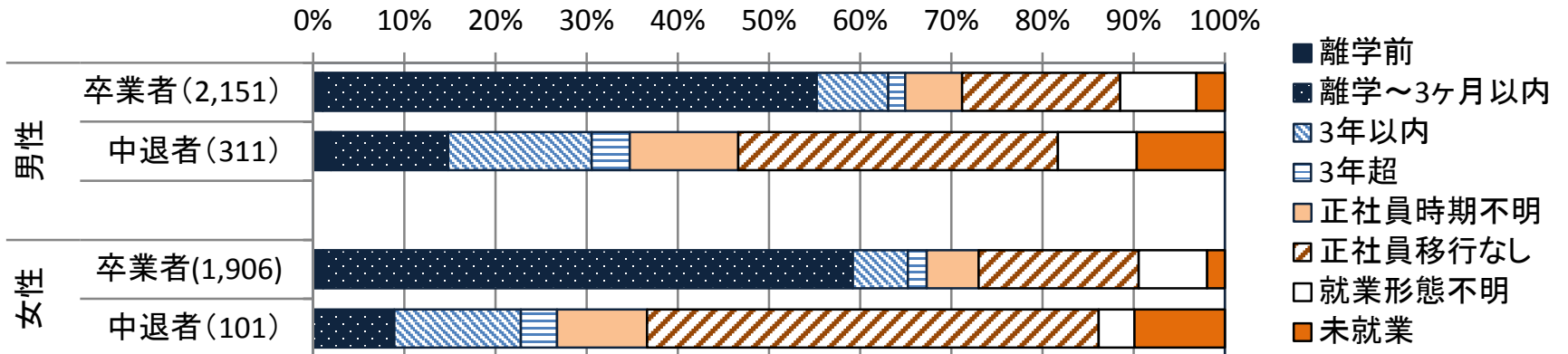
正社員としての就業までの期間はさらに長い。中退者で離学から3か月以内に正社員になった者は大学・大学院中退で1割、高校中退では数%にとどまる。中退者の6割前後がこれまで一度も正社員を経験していない。この比率は女性で特に高い。

図表4 卒業・中退から、正社員就業までの期間

①高校段階(20～29歳)



②大学段階(25～29歳)



現在の就業状況を見ると、中退者は卒業者に比べて無業の者が多い。無業で、求職中ないし就業希望を持つ者が、中退者では男女とも全体の2割から2割5分程度を占める。無業で求職中の者を失業者として失業率を求めると、中退者の失業率は同じ教育段階の卒業者の2倍前後と高い。この比は高校中退の場合が最も大きく、高校段階での中退は他の教育段階での中退以上に失業のリスクを高めている。

図表5 現在の有業・無業の状況

		正社員	非正規	その他有業者	無業・求職者	無業・就業希望者	無業・非就業希望	計(N)	
男性	中学卒	30.3	22.1	24.7	9.2	7.4	6.3	100.0	271
	高校卒	54.5	16.5	20.7	4.6	2.2	1.6	100.0	4,209
	専門・短大・高専卒	51.9	18.9	21.3	5.7	1.4	0.8	100.0	2,150
	大学・大学院卒	58.7	13.5	18.7	6.7	1.7	0.6	100.0	2,933
	高校中退	34.0	24.9	19.9	11.0	6.2	3.9	100.0	562
	専門・短大・高専中退	32.8	34.0	14.6	10.6	4.9	3.0	100.0	329
	大学・大学院中退	27.8	33.1	17.5	10.6	8.8	2.2	100.0	510
	計	51.3	18.1	20.1	6.2	2.6	1.6	100.0	11,094
女性	中学卒	4.6	32.9	7.3	16.5	22.0	15.9	100.0	164
	高校卒	32.9	33.2	14.2	6.8	6.4	6.4	100.0	3,732
	専門・短大・高専卒	47.2	25.6	15.7	4.7	3.6	3.2	100.0	4,332
	大学・大学院卒	56.8	19.1	15.0	4.1	2.6	2.4	100.0	2,738
	高校中退	6.3	45.7	9.0	13.3	12.3	13.3	100.0	457
	専門・短大・高専中退	17.4	46.3	10.0	10.3	9.5	6.6	100.0	380
	大学・大学院中退	22.5	46.2	9.3	6.6	11.5	3.8	100.0	182
	計	41.3	28.3	14.5	5.9	5.1	4.8	100.0	12,084
男女計	中学卒	20.9	26.2	18.2	12.0	12.9	9.9	100.0	435
	高校卒	44.3	24.3	17.7	5.6	4.2	3.9	100.0	7,941
	専門・短大・高専卒	48.8	23.4	17.6	5.1	2.9	2.4	100.0	6,482
	大学・大学院卒	57.8	16.2	16.9	5.4	2.1	1.5	100.0	5,671
	高校中退	21.6	34.2	15.0	12.1	8.9	8.1	100.0	1,019
	専門・短大・高専中退	24.5	40.6	12.1	10.4	7.3	4.9	100.0	709
	大学・大学院中退	26.4	36.6	15.3	9.5	9.5	2.6	100.0	692
	計	46.1	23.4	17.2	6.1	3.9	3.3	100.0	23,178

図表6 中退者と卒業者の失業率*

	全年齢(20~29歳)			25-29歳			
	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計	
失業率*	中学卒	10.7	26.5	15.5	10.5	19.3	13.0
	高校卒	4.7	7.8	6.1	4.1	8.5	6.1
	専門・短大・高専卒	5.8	5.1	5.3	5.0	5.4	5.3
	大学・大学院卒	6.8	4.3	5.6	5.9	4.5	5.3
	高校中退	12.3	17.9	14.6	11.3	17.3	13.6
	専門・短大・高専中退	11.6	12.2	11.9	9.3	14.4	12.0
	大学・大学院中退	11.9	7.8	10.9	8.5	5.8	7.9
	計	6.5	6.6	6.6	5.7	6.8	6.2
中退者/卒業者 : 高校	2.6	2.3	2.4	2.8	2.0	2.2	
中退者/卒業者 : 専門・短大・高専	2.0	2.4	2.2	1.9	2.7	2.3	
中退者/卒業者 : 大学・大学院	1.7	1.8	1.9	1.4	1.3	1.5	
「就業者+ 無業求職者」(N)	中学卒	234	102	336	143	57	200
	高校卒	4,051	3,252	7,303	2,083	1,652	3,735
	専門・短大・高専卒	2,103	4,040	6,143	1,312	2,241	3,553
	大学・大学院卒	2,865	2,602	5,467	2,107	1,779	3,886
	高校中退	505	340	845	311	196	507
	専門・短大・高専中退	303	319	622	162	180	342
	大学・大学院中退	454	154	608	282	86	368
	計	10,624	10,886	21,510	6,459	6,228	12,687

注:*失業率は (無業求職者) / (就業者+無業求職者)*100 とした。

表の中段は、対応する教育段階ごとに、中退者の失業率を卒業者の失業率で除して求めた比。

雇用形態に注目すると、中退者は非正規雇用が多い。雇用者に占める非正規雇用比率を同じ教育段階の卒業者と比べると、男女とも2倍前後になっている。この比は大学・大学院卒が最も大きく、大学・大学院段階での中退は非正規雇用になるリスクを他の教育段階での中退以上に高めている。

図表7 雇用者中に占める非正規雇員の比率*

	全年齢(20～29歳)			25～29歳			
	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計	
雇用者中 の非正規 比率*	中学卒	47.4	85.9	58.6	38.9	86.8	52.6
	高校卒	24.9	51.0	36.6	25.3	55.8	38.9
	専門・短大・高専卒	27.5	36.4	33.5	25.5	37.1	33.1
	大学・大学院卒	20.5	27.3	23.9	18.3	27.7	22.7
	高校中退	43.0	88.0	61.8	34.0	89.1	56.9
	専門・短大・高専中退	51.4	72.7	62.5	41.9	71.0	57.3
	大学・大学院中退	55.2	67.5	58.7	43.2	61.2	47.7
	計	27.6	41.9	35.1	24.9	42.4	33.8
中退者/卒業者 : 高校	1.7	1.7	1.7	1.3	1.6	1.5	
中退者/卒業者 : 専門・短大・高専	1.9	2.0	1.9	1.6	1.9	1.7	
中退者/卒業者 : 大学・大学院	2.7	2.5	2.5	2.4	2.2	2.1	
雇用者(N)	中学卒	156	64	220	95	38	133
	高校卒	3,052	2,503	5,555	1,576	1,277	2,853
	専門・短大・高専卒	1,540	3,215	4,755	960	1,775	2,735
	大学・大学院卒	2,168	2,140	4,308	1,605	1,455	3,060
	高校中退	335	241	576	194	138	332
	専門・短大・高専中退	222	242	464	117	131	248
	大学・大学院中退	317	126	443	199	67	266
	計	7,868	8,590	16,458	4,788	4,908	9,696

注: 非正規雇用は、アルバイト・パート、労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員・嘱託、その他。
雇用者はこれに正社員を加えたものである。

前年の所得と現在の1週間の労働時間という限られた情報から、疑似的に労働時間1時間当たりの収入を求め、これを同じ教育段階を中退した者と卒業した者と比較すると、中退者の時間当たり収入は卒業者の7割から9割の水準にとどまった。男女とも高い教育段階で中退した者ほどこの値は低く、高い段階での中途退学ほど収入に与える影響は大きいことが示唆された。

①男性(20～29歳)

	前年の所得(現在有業の者のみ)		週労働時間		時間当たり収入		卒業者(=100)に対する中退者の時間当たり収入
	(万円)	(N)	(時間)	(N)	(円)	(N)	
中学卒	198.6	135	43.2	198	902	105	
高校卒	244.1	2,988	43.7	3,702	1,170	2,623	
専門・短大・高専卒	234.2	1,485	44.5	1,900	1,129	1,234	
大学・大学院卒	273.9	2,061	44.8	2,594	1,340	1,744	
高校中退	216.1	332	43.6	421	1,051	267	90
専門・短大・高専中退	187.6	203	41.1	259	973	158	86
大学・大学院中退	183.9	302	40.1	389	995	233	74

②女性(20～29歳)

	前年の所得(現在有業の者のみ)		週労働時間		時間当たり収入		卒業者(=100)に対する中退者の時間当たり収入
	(万円)	(N)	(時間)	(N)	(円)	(N)	
中学卒	136.9	57	33.6	67	782	46	
高校卒	166.2	2,453	37.6	2,837	906	2,029	
専門・短大・高専卒	201.7	3,213	41.9	3,683	1,020	2,625	
大学・大学院卒	235.7	2,203	42.3	2,441	1,209	1,776	
高校中退	126.0	220	30.8	263	841	167	93
専門・短大・高専中退	139.5	229	35.3	266	888	163	87
大学・大学院中退	151.8	123	36.6	137	935	88	77

対象は現在有業の者のみで、上下5%を除く平均値。前年所得は勤労所得(税込)とその他の所得の合計。前年の所得なしの者を除いて集計した。時間当たり収入は 前年の所得 / (現在の平均的な1週間の就業時間(残業含む) × 50週)。前年所得があり、かつ現職入職時期が前年以前の者のみを集計した。

対象者が30歳から40歳代前半に達している「履歴データ」から、中退の長期的な影響を検討すると、30歳代後半から40歳代にかけて、同じ教育段階の卒業者との差異は、失業率についてはかなり改善された。非正規雇用率については、男性の大学・大学院段階での中退と卒業の差異は明らかにあったものの、非正規雇用の多くを占める女性での差異が小さいために全体としては、差異は小さくなった。収入への影響は、この年齢層でも同じように残っていた。

中退の職業生活への影響は大きく、また長期に及ぶと考えられる。ただし、ここでは、中退の原因となり、またその後の職業への移行の障害ともなる要因(たとえば、病気や妊娠・出産、経済困窮など)の影響を除いた分析ではないので、中退の影響が過大に評価されている可能性がある。

図表9 失業率の卒業者と中退者の比較(履歴データ)

	男性			女性			男女計			
	30～34歳	35～39歳	40～44歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	
失業率*	高校卒	5.0	3.4	3.1	7.4	9.9	7.5	6.1	6.3	5.3
	高等教育卒	4.3	2.5	2.5	5.8	8.7	6.7	5.2	5.7	4.7
	高校中退	12.5	4.1	2.9	-	-	-	8.2	9.2	5.1
	高等教育中退	4.3	4.7	3.1	9.4	11.1	8.1	6.3	6.6	5.0
	計	4.8	3.2	2.9	6.0	9.2	8.1	5.4	6.1	5.1
中退者/卒業者 : 高校	2.5	1.2	0.9	-	-	-	1.3	1.5	1.0	
中退者/卒業者 : 高等教育	1.0	1.8	1.3	1.6	-	1.2	1.2	1.1	1.1	
「就業者+無業求職者」(N)	高校卒	318	534	744	242	445	731	560	979	1,475
	高等教育卒	599	788	1,005	779	867	1,055	1,378	1,655	2,060
	高校中退	32	49	69	17	16	29	49	65	98
	高等教育中退	47	64	64	32	27	37	79	91	101
	計	1,027	1,470	1,948	1,094	1,378	1,896	2,121	2,848	3,844

図表10 雇用者中に占める非正規雇用者の比率(履歴データ)

		全年齢(30~44歳)		
		男性	女性	男女計
雇用者中 の非正規 比率*	中学卒	29.3	-	47.7
	高校卒	12.8	66.5	39.6
	専門・短大・高専卒	10.7	53.6	40.6
	大学・大学院卒	10.1	40.8	21.0
	高校中退	14.9	82.1	35.7
	専門・短大・高専中退	31.3	62.5	46.9
	大学・大学院中退	27.7	-	33.3
	計	12.3	55.8	34.6
中退者/卒業者 : 高校		1.2	1.2	0.9
中退者/卒業者 : 専門・短大・高専		2.9	1.2	1.2
中退者/卒業者 : 大学・大学院		2.7	-	1.6
雇用者(N)	中学卒	42	25	67
	高校卒	1,006	1,006	2,012
	専門・短大・高専卒	583	1,353	1,936
	大学・大学院卒	1,105	623	1,728
	高校中退	89	40	129
	専門・短大・高専中退	48	48	96
	大学・大学院中退	68	22	90
	計	2,974	3,153	6,127

図表11 所得、労働時間、時間当たりの収入(履歴データ)

①男性

	前年の所得(現在有業の者のみ)		週労働時間(残業含む)		時間当たり収入		卒業者(=100)に対する中退者の時間当たり収入
	(万円)	(N)	(時間)	(N)	(円)	(N)	
中学卒	312.1	59	48.8	71	1,309	57	
高校卒	386.4	1,352	47.6	1,511	1,679	1,282	
専門・短大・高専卒	389.4	786	49.0	853	1,650	737	
大学・大学院卒	500.3	1,325	48.7	1,438	2,093	1,255	
高校中退	329.9	123	50.9	139	1,329	113	79
専門・短大・高専中退	314.7	59	47.6	64	1,387	52	84
大学・大学院中退	349.3	90	47.0	102	1,561	83	75

②女性

	前年の所得(現在有業の者のみ)		週労働時間(残業含む)		時間当たり収入		卒業者(=100)に対する中退者の時間当たり収入
	(万円)	(N)	(時間)	(N)	(円)	(N)	
中学卒	-	27	28.7	36	-	24	
高校卒	169.4	1,174	33.6	1,263	1,022	1,032	
専門・短大・高専卒	218.7	1,573	35.3	1,687	1,257	1,387	
大学・大学院卒	293.8	735	37.6	743	1,568	638	
高校中退	138.4	48	32.6	55	890	42	87
専門・短大・高専中退	175.9	56	34.3	61	1,036	42	82
大学・大学院中退	-	25	-	24	-	21	-

中退の背景と中退後の求職活動

ハローワークを通じて、「大学等を中途退学された方の働き方と意識に関する調査」を実施。調査の実施時期は、2014年8月20日から10月末。5980通送付し、推計回収率は18.5%。分析対象は1,095票。大学中退7割、専門、短大・高専がそれぞれ1割前後。20歳代が7割、男性が6割。

大学中退は2年時と4年時に多く、専門学校、短大では1年時に多い。大学では、必要単位の不足等による2年時留年と4年時での卒業論文・研究未着手に関係か。

図表12 中退した学年

	中退したときの学年				合計		
	1年生	2年生	3年生	4年生以上	%	N	
男性	専門学校	53.1	35.9	6.3	4.7	100.0	64
	短大・高専	25.0	40.0	15.0	20.0	100.0	20
	大学	12.3	28.4	26.4	32.9	100.0	511
	大学院	33.3	61.1	2.8	2.8	100.0	36
	合計	18.1	31.5	22.7	27.7	100.0	635
女性	専門学校	53.9	40.8	5.3	0.0	100.0	76
	短大・高専	59.5	37.8	1.4	1.4	100.0	74
	大学	27.5	37.1	17.9	17.5	100.0	229
	大学院	8.3	66.7	16.7	8.3	100.0	12
	合計	38.0	39.0	12.2	10.7	100.0	392
男女計	専門学校	53.6	38.6	5.7	2.1	100.0	140
	短大・高専	52.1	38.3	4.3	5.3	100.0	94
	大学	17.0	31.1	23.8	28.1	100.0	740
	大学院	27.1	62.5	6.3	4.2	100.0	48
	合計	25.7	34.4	18.7	21.2	100.0	1,027

対象者が中退した学部・専攻は社会科学系、理・工・農が多い。在学生全体の学部・専攻の比率に比べると、専門学校では医療・保健・衛生、大学では理・工・農や人文科学、短大では芸術・服飾家政・文化教養の比率が高く、これらの学部・専攻で中退率が高い可能性がある。

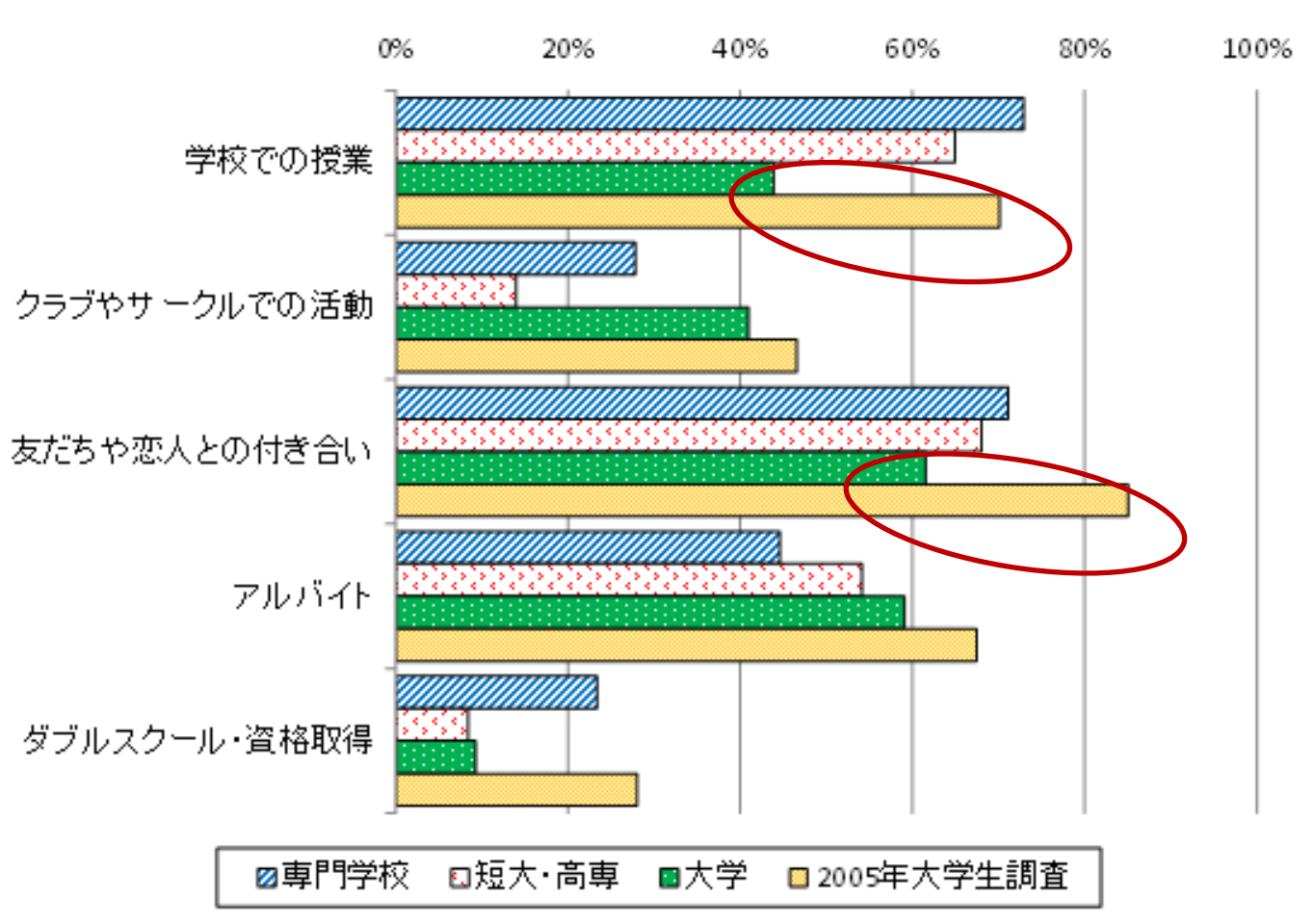
図表13 中退した学部・専攻

	学部・専攻							合計		
	人文科学 (教養含)	社会科学 (商業実務 含)	理・工・農	医療・保健・ 衛生	教育・福祉	芸術・服飾 家政・文化 教養	その他・分 類不能	%	N	
男性	専門学校	—	9.7	27.4	35.5	8.1	19.4	—	100.0	62
	短大・高専	0.0	20.0	50.0	5.0	10.0	10.0	5.0	100.0	20
	大学	14.3	38.6	32.4	4.4	3.0	3.4	3.8	100.0	497
	大学院	8.8	35.3	50.0	5.9	0.0	0.0	0.0	100.0	34
	合計	12.1	34.9	33.6	7.7	3.6	5.0	3.3	100.0	614
女性	専門学校	—	14.3	3.9	63.6	5.2	13.0	—	100.0	77
	短大・高専	7.9	6.6	3.9	7.9	34.2	30.3	9.2	100.0	76
	大学	26.9	25.6	12.1	9.9	5.4	12.1	8.1	100.0	223
	大学院	33.3	16.7	25.0	0.0	16.7	8.3	0.0	100.0	12
	合計	18.0	19.3	9.3	19.8	11.3	15.7	6.4	100.0	388
男女計	専門学校	—	12.2	14.4	51.1	6.5	15.8	—	100.0	139
	短大・高専	6.3	9.4	13.5	7.3	29.2	26.0	8.3	100.0	96
	大学	18.2	34.6	26.1	6.1	3.8	6.1	5.1	100.0	720
	大学院	15.2	30.4	43.5	4.3	4.3	2.2	0.0	100.0	46
	合計	14.4	28.8	24.2	12.4	6.6	9.2	4.5	100.0	1,002

注：学部・専攻の無回答は分析から除いた。また、学校種類のその他・無回答は、分析には含まれるが非掲載とした。

大学中退者では、2005年大学生調査*における大学4年生の結果に比べると、5項目とも、中退者の熱心さが下回り、特に学校での授業、友だちや恋人との付き合いでその差が大きい。

図表14 学校時代の諸活動への熱心さ



* 2005年大学生調査は、2005年10月～11月に、全国の4年制大学(医歯学・看護学・宗教学の単科大学を除く)276校の4年生(医学部、歯学部、看護学部を除く)を対象に、JILPTが実施したもの。有効回答票数は、18,509票。

大学中退者では、「勉強に興味・関心が持てなかったから」、「単位が不足したから」が50%前後で多い。次いで「経済的に苦しかった」が3割。

図表15 中退しようと思った理由(複数回答)

	専門学校	短大・高専	大学	大学院	合計
勉強に興味・関心が持てなかったから	43.1	55.7	51.8	26.5	49.5
遅刻や欠席が多かったから	10.4	24.7	22.4	4.1	20.1
単位が不足したから	21.5	29.9	49.0	10.2	41.7
教員とうまく関われなかったから	23.6	16.5	12.0	40.8	15.3
友達とうまく関われなかったから	22.9	25.8	19.5	16.3	20.3
自分の生活リズムが学校と合わなかったから	11.8	12.4	11.4	8.2	11.3
通学するのが大変だったから	9.0	11.3	12.2	4.1	11.2
仕事をしたいと思ったから	16.7	21.6	21.0	20.4	20.4
ほかにやりたいことがあったから	20.8	17.5	18.6	14.3	18.5
病気やケガがあったから	11.8	12.4	11.4	20.4	12.1
経済的に苦しかったから	18.8	17.5	29.6	30.6	27.3
しばらく休みたかったから	6.9	9.3	6.8	6.1	7.0
妊娠・出産をしたから	0.7	1.0	2.1	0.0	1.7
特に何もなかった	0.7	0.0	0.3	0.0	0.3
その他	13.2	17.5	14.1	24.5	14.7
合計(N)	144	97	753	49	1,049

注: 中退理由の無回答は分析から除いた。また、学校種類のその他・無回答は、分析には含まれるが非掲載とした。

中退理由の根底には学業に対する興味関心の欠如が存在

図表16 最も重要な中退理由と複数回答との関連

	勉強に興味・関心が持てなかったから	遅刻や欠席が多かったから	単位が不足したから	教員とうまく関われなかったから	友達とうまく関われなかったから	自分の生活リズムが学校と合わなかったから	通学するのが大変だったから	仕事をしたいと思ったから	ほかにやりたいことがあったから	病気やケガがあったから	経済的に苦しかったから	しばらく休みたかったから	妊娠・出産をしたから	特に何もなかった	その他	N
学業不振・無関心	72.9	26.9	63.0	12.8	17.7	9.7	11.1	16.7	13.3	3.1	15.0	4.4	0.0	0.0	12.3	422
人間関係・大学生活不適應	35.1	21.1	33.3	44.7	56.1	27.2	24.6	10.5	7.9	12.3	10.5	8.8	0.0	0.0	17.5	114
進路変更	52.4	18.2	27.3	9.1	11.2	15.4	8.4	58.7	66.4	2.1	19.6	2.1	0.0	0.0	4.9	139
病気・ケガ・休養	25.2	15.7	17.4	13.9	26.1	9.6	9.6	5.2	7.0	67.8	13.9	26.1	0.0	0.0	20.0	115
家庭・経済的理由(妊娠出産含)	18.1	8.8	23.4	4.1	6.4	3.5	7.0	11.1	7.6	4.1	83.6	3.5	9.4	0.0	18.1	171
特に何も無い・その他	5.9	0.0	5.9	11.8	0.0	0.0	5.9	23.5	11.8	0.0	11.8	0.0	0.0	17.6	82.4	12

最も重要な中退理由

大学の専攻別には、理系学部で「学業不振・無関心」が5割を超え特に多い。人文科学、教育ではこれが3割程度で、「家庭・経済的理由」など他の理由が多い。

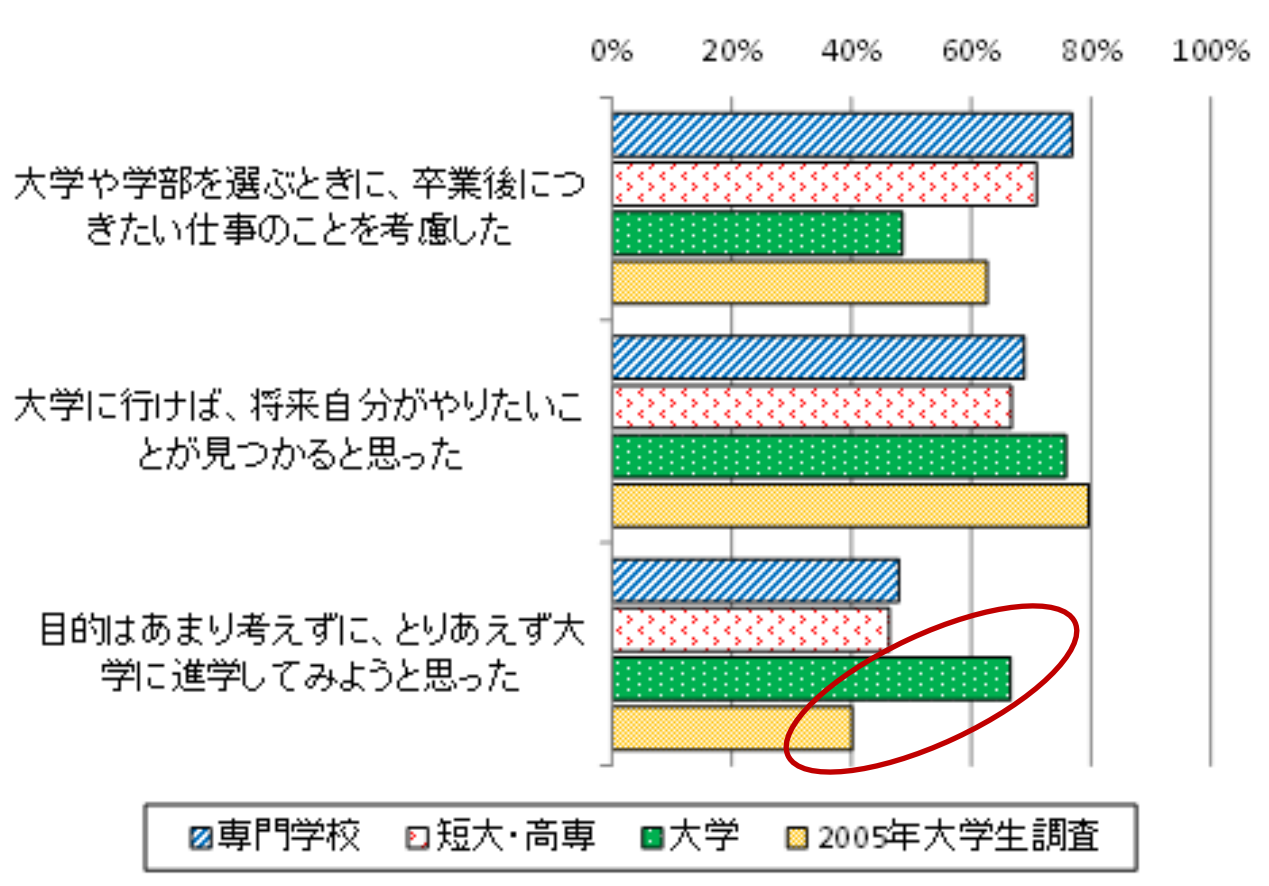
図表17 大学での専攻別 最も重要な中退理由

	最も重要な中退理由						合計	
	学業不振・ 無関心	人間関係・ 大学生活不 適応	進路変更	病気・ケガ・ 休養	家庭・経済 的理由(妊 娠出産含)	特に何もな い・その他	%	N
人文科学	31.8	<u>14.0</u>	<u>16.3</u>	12.4	<u>24.8</u>	0.8	100.0	129
社会科学	46.1	6.6	<u>17.1</u>	8.3	19.3	2.6	100.0	228
理・工・農	<u>51.1</u>	9.8	13.8	6.9	16.7	1.7	100.0	174
保健	<u>51.2</u>	9.3	11.6	16.3	9.3	2.3	100.0	43
教育	28.0	12.0	12.0	<u>20.0</u>	<u>28.0</u>	0.0	100.0	25
芸術・家政	38.5	12.8	12.8	17.9	17.9	0.0	100.0	39
その他	31.3	6.3	9.4	18.8	31.3	3.1	100.0	32
合計	43.1	9.6	14.9	10.7	19.9	1.8	100.0	670

注: 学部・専攻の無回答、および最も重要な中退理由の無回答は分析から除いた。

大学等への進学を決める際、「目的はあまり考えずに、とりあえず大学に進学してみようと思った」者が、中退者の場合、大学在學生より多い。

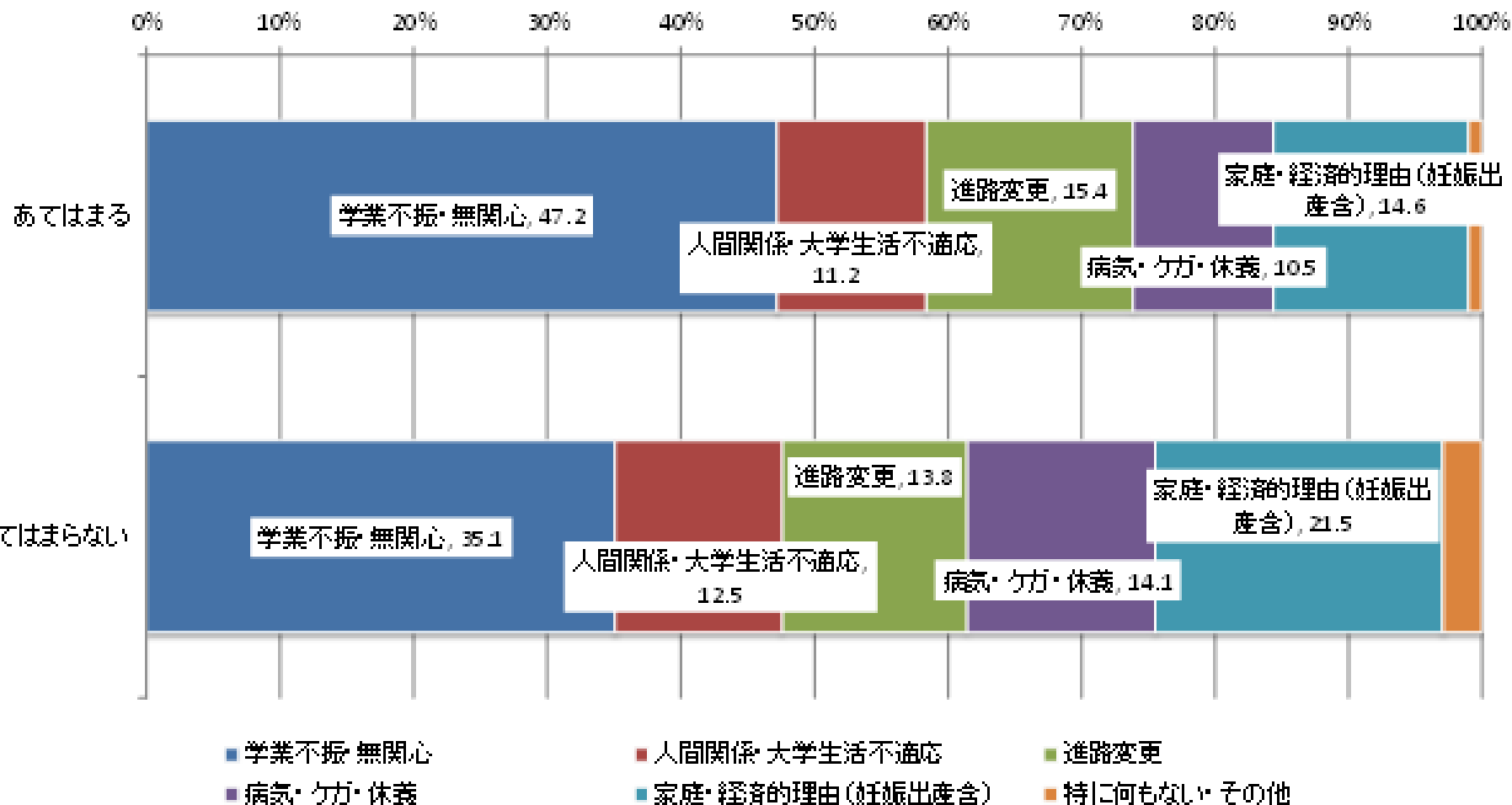
図表18 大学等進学選択時の進路意識*の特徴



* 各設問に「よくあてはまる」+「まああてはまる」と答えた者の比率。(選択肢は他に「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」)

「目的はあまり考えずに、とりあえず大学に進学してみようと思った」中退者の場合、中退理由は、「学業不振・無関心」が多い。

図表19 「目的はあまり考えずに、とりあえず大学に進学してみようと思った」と 最も重要な中退理由との関連

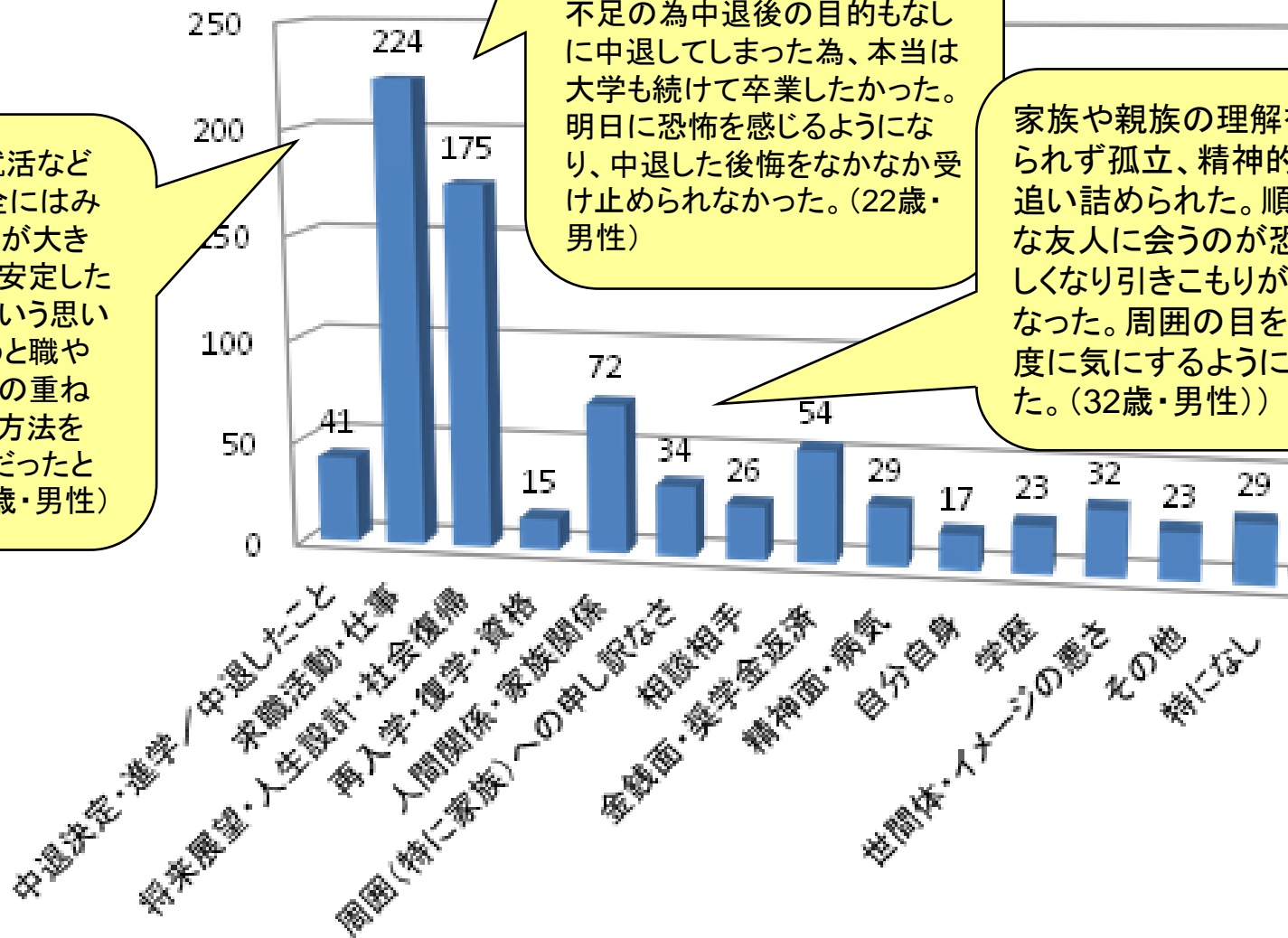


図表18 中退時の悩み・困難(自由記述から、N=621、複数回答扱い)

大学における就活などの流れから完全にはみだしたので不安が大きかった。当時は安定した職に就きたいという思いしかなく、今思うと職や今後のキャリアの重ね方など、様々な方法を知っておくべきだったと思います。(25歳・男性)

今後の進路について、自分がこれからどうしていけばいいのか考えがつかなかった。単位不足の為中退後の目的もなしに中退してしまった為、本当は大学も続けて卒業したかった。明日に恐怖を感じるようになり、中退した後悔をなかなか受け止められなかった。(22歳・男性)

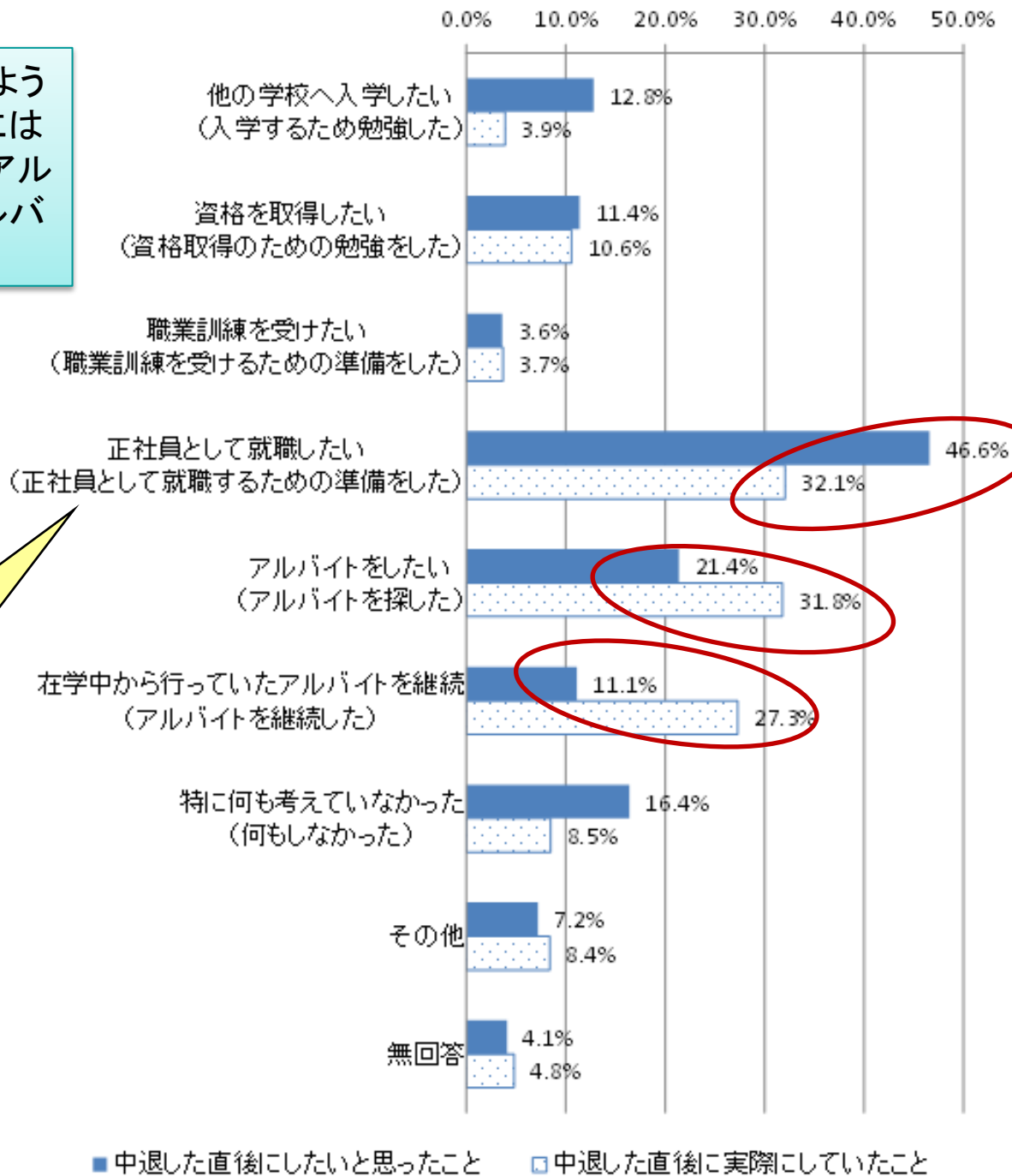
家族や親族の理解を得られず孤立、精神的に追い詰められた。順調な友人に会うのが恐ろしくなり引きこもりがちになった。周囲の目を過度に気にするようになった。(32歳・男性)



中退したら正社員として就職しよう
 と思っていた者は多いが、実際には
 そのための準備をすることなく、アル
 バイトを探したり、これまでのアルバ
 イトを継続した者が多い。

図表19 中退した直後に
 したいと思ったことと
 実際に行っていたこと
 (複数回答)

新卒の就職活動の仕方は、調べなく
 ても自然と耳に入ってくるが、中退し
 たら何をすればいいのか何も分から
 なかった。(20歳・男性)
 正社員として雇用してくれる所を探す
 事が大変でしたので、派遣やアルバ
 イトでつないでいました。フルタイム
 で働いていたので、その中での就活
 は時間的に難しかったです。(36歳・
 女性)

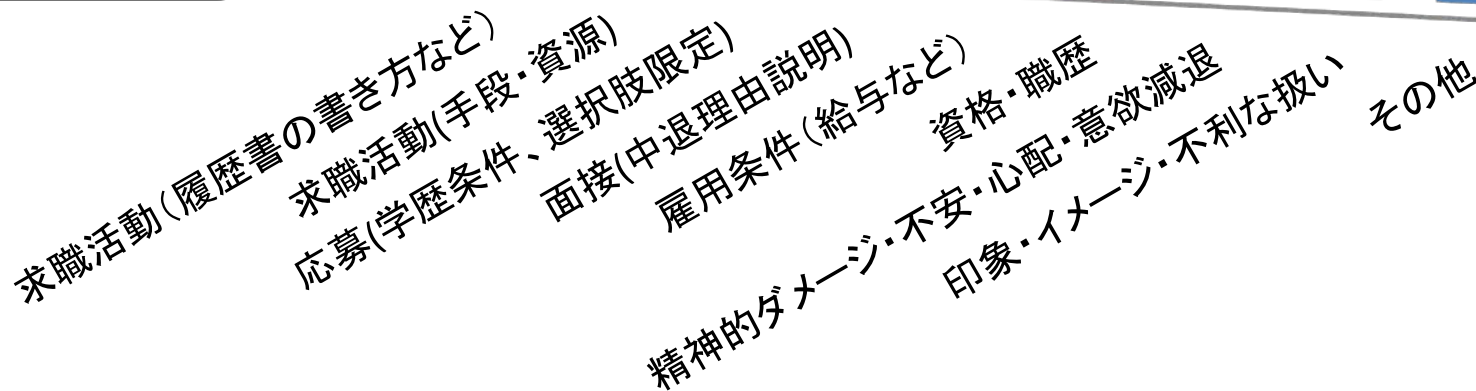


約半数の中退者が、中退後の就職活動での困難・不利益を感じたとしている。その内訳を自由記述からみると、応募時や面接時に、中退の影響を感じる人が多い

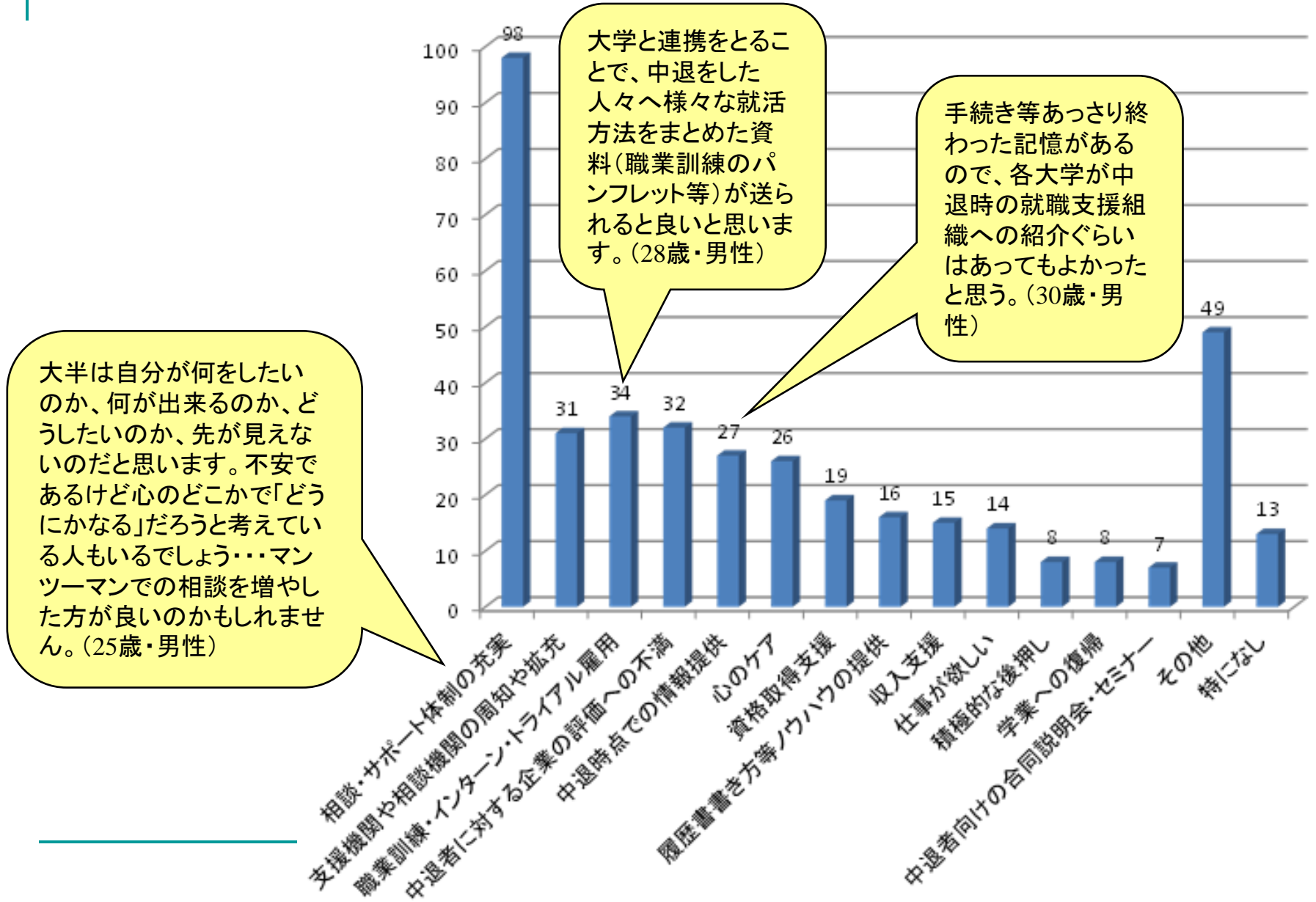
図表20 中退後の就職活動での困難・不利益(自由記述から N=468)

経験や能力があっても大卒ではない為、応募出来ない事があった。経緯を説明しても、中退を理由に不採用とされた。資格取得時に条件が不利で選択の幅が狭まる。書類審査を通過出来ない事が多い。(32歳・男性)

面接で、「なぜ大学を辞めたのか」から話が始まる。(中退後すぐの頃。社会経験がないからか)中退=仕事もろくに続けられないのではという先方の思いが見てとれるような企業もあり、大学中退より高卒の方が就職に有利なのだと思います(28歳・女性)



図表21 中退時や中退後の就職支援に対する要望について(自由記述から)



まとめ：高校での進学指導・キャリア教育との関係から

①中途退学の職業キャリアへの影響は大きく、また長期的に影を落とす。

しかし、この事実は広く知られているとは言えず、中退を決めた時点では、ほとんど意識されていない。「中退しない学校」は進路選択における最重要条件の一つ。

②学ぶことへの興味関心と学力がともに重要。

「とりあえず進学」は中退によって破綻しやすい。高校進路指導においては、かつてと比べると、大学ランクだけではなく興味関心を重視する方向に転換していると思われるが、興味関心と並んで、大学における学業を支える基礎学力を高める教育が重要。

③大学の学習環境の整備、経済的支援をふくむ学生支援の充実も重要。

大学の様々な教育的働きかけが、学業に対する興味関心を高め、学業の継続を可能にする。すでに多くの大学で、全学的な教育改革への取り組みが進められているが、こうした取り組みが結果として中退を減少させることが期待できる。大学の教育改革への取り組み状況は進学先選択において重要な情報となろう。

さらに、大学においては、キャリア支援の立場から中退者を就業支援機関につなぐ仕組みを取り込むべきだし、また、専攻の決定時期の後送りや編入学制度の整備など多様な学生の学業継続を図る仕組みも検討すべきであろう。

④社会資源を活用できる現実的な知識・知恵

自らのキャリアの危機に活用できる社会資源について、現実的な知識・知恵を。「18歳選挙権」の議論にあわせて、大人にする教育の場としての高校の役割が大きくなるのではないか。

引用文献

- 姉川恭子, 2014,「大学の学習・生活環境と退学率の要因分析」九州大学『経済論究』第149号, pp.1-16.
- 内田千代子,2013,「大学における休・退学、留年学生に関する調査」第33報.
- 清水一, 2013,「大学の偏差値と退学率・就職率に関する予備的分析」『大阪経大論集』第64巻第1号, pp.57-70.
- 東京大学政策ビジョン研究センター, 2014,『「専修学校における生徒・学生支援等に対する基礎調査」調査研究報告書』.
- 濱名篤, 2013,「大学中退の捉え方——マクロな視点から」『大学教育学会誌』第35巻第1号, pp.12-16.
- 朴澤泰男, 2012,「学校基本調査に見る中退と留年」『IDE』2012年12月号, pp.64-67.
- 三輪哲・下瀬川陽, 2014,「戦後日本における高等教育中退に対する出身階層の影響」第87回日本社会学会大会発表資料.
- 村澤昌崇, 2008,「大学中途退学の計量的分析」『比治山高等教育研究』(1), pp.153-165.
- 山本繁, 2012,「学生の中退防止」『IDE』2012年12月号, pp.30-36.
- 山下仁司, 2014,「大学生の中退防止に向けて——入学時退学意向の要因は何か」
<http://berd.benesse.jp/koutou/topics/index2.php?id=4131>
- **労働政策研究・研修機構,2015,『大学等中退者の就労と意識に関する研究』**
序章(堀有喜衣)
中途退学後の職業キャリア:「21世紀成年者縦断調査」の2次集計より(小杉礼子)
ハローワークに来所した中途退学者の実態①:学校時代と中退後の生活を中心に(喜始照宣)
ハローワークに来所した中途退学者の実態②:中退後の就職活動(堀有喜衣)
<http://www.jil.go.jp/institute/research/2015/138.html>